COLUMN

シリコンバレーで活躍する女性PRパーソン
バーバラ・クラインさんに聞く

「グローバルな視点で発信し合い、日米の相互理解をより深めたい」

Barbara Kline
ブルークスルー社代表
(Breakthru)

●シリコンバレーという土地柄、ハイテク企業がお仕事がはとんどだと聞いています。

専門性の高い特殊な分野ですから、PRパーソンはパートナーとしての関係が密接です。ハイテク業界は大変な勢いで走り続けていますから、今、そこで何が起こっているのかを常に知っておかなくてはなりません。そうした情報を把握したうえで、一般消費者に対する発信も必要ですし、一方で業界へ向けた品質を内容も求められます。日本はシリコンバレーにとっても有望な市場ですから、今後はより結束的に米国からの発信が増えるはずです。

●日本のPR活動については、どんな印象をお持ちですか。

かなり洗練されてきたという感じがします。かつては情報を隠ぺいしたがらない傾向が強かったのですが、最近は積極的に発信するケースが多くなってきました。PRに対する受手側の反応も変わってきており、日本のPR業界は、確実に質的な向上が見られるのではないでしょうか。

●日本のPRにどんな違いがありますか。また今後の両国のPRの発展は？

米国のPRでは、日本程お金はかかりません(笑)。日本ではこんなことを頼むのに、こんなにお金がかかるの」と思うことがしばしばです。やはり考え方が違うのでしょうか。

これからは、さまざまな国の企業との交流をしていきたいと考えています。その意味でも、情報発信においてよりグローバルな視点が必要となってきています。そのツールとしてインターネットが重要で、世界同時に、同じ情報がリアルタイムで流れるわけですから、このツールを上手に利用しない手はありません。

PRという仕事を通じて両国間の理解を深めていくことが、クライアントの利益になるかります。私たちの会社は小さな組織ですが、小回りの効く良さを活かしてクライアントのお役に立ちたいですね。